

NPO 法人 都市災害に備える技術者の会

ニューズレター issue 32



都市災害に備える技術者の会事務局：〒651-1432 兵庫県西宮市すみれ台3-1（太田ジオリサーチ内）
TEL:078-907-3120 FAX: 078-907-3123 e-mail: office@toshisaigai.net http://www.toshisaigai.net

理事長挨拶

新年を迎えて

伊藤 東洋雄（いとうとよお）理事長



明けましておめでとうございます。

皆様におかれましてはご家族共々よいお年を迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。

昨年は、阪神・淡路大震災から20年という節目の年でありましたが、我が国を取り巻く自然災害の勢いは一向に衰えを見せず、各地で地震・噴火・大雨・洪水に見舞われた一年でありました。また、平成23年3月に発生した東日本大震災の被災地では、懸命の復興活動にも関わらず5年を経過しよとしている現在も不便な生活を余儀なくされている多くの皆様がおられるという現実があります。

その中で、本会の活動も平成16年の設立から12年目を迎えようとしています。この間、本紙を通じてお知らせしています通り、幼稚園から大学までの出前授業や各地の自主防災会などでの啓発活動、会員を含む一般の皆様を対象にした研修・講演会などを数多く行ってまい

りました。さらには、自治体との交流などを進める活動にも取り組んできました。

東海・東南海・南海地震がいつ発生してもおかしくないと言われている昨今、これまでの活動内容に満足することなく、今後は一層活動を活発化させ、市民の皆様とのコミュニケーションを深めるとともに自治体を含む関係団体との連携を深め、特に自治体の防災業務を専門家サイドから支援し、計画策定や防災調査などの技術支援がはかれるよう防災・減災活動に取り組んでいく所存であります。

会員の皆様には今年も本会へのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますと共に、併せて今年も皆様の益々のご発展を祈念致しましてご挨拶と致します。

本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

＜新入会員の自己紹介＞

井川 忠（いかわただし）会員

NPO法人「都市災害に備える技術者の会」の入会にあたり、ご挨拶させていただきます。

私は、平成6年に建設コンサルタントに入社し、それ以来、主に砂防関連の業務に従事して参りました。入社直後は、砂防堰堤や測量の作業補助を行っておりましたが、平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災を契機に、六甲山系の市街地に面する自然斜面・人工斜面の調査やグリーンベルト関連の業務に従事し、都市防災・砂防事業の必要性について認識が深まりました。その後、国の出先機関・砂防関係財団への出向を経験し、現在はハード対策や防災関連業務に従事しております。

最近の業務実績で代表的なものでは、奈良県の自治体で実施した防災マップの作成です。20工区余りの村内の工区を歩き、十津川災害や過去の土砂災害箇所を住民からヒアリングを行い、マップ化するという地道な仕事ですが、住民目線でモノづくりを行うという意味では、これまで経験のない貴重な体験でした。

また、そのマップを作成した後、実際に危険と判断された箇所で土砂崩落が発生し、マップの信頼性が評価されたことも記憶に新しいです。現在は、今年9月に発生した鬼怒川上流域の土砂災害の対応に追われており、未だ、皆様への直接のご挨拶が行えていない状況で大変申し訳ございません。

本 NPO に入会したきっかけですが、未だ技術者として未熟であります。先輩皆様の豊富な御経験や防災・減災の見識を深化させるために、御指導いただきながら微力ではありますが活動させていただきたいと思っております。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

<新入会員の自己紹介>

西浦 清貴 (にしうらきよたか) 会員

本年7月に、「都市災害に備える技術者の会」に入会させていただきました。

これまで、トンネルを主にハードな構造物の設計を主に行ってきましたが、東日本大震災の被災地におけるトンネル、道路の被災調査を経験し、インフラの復興と住民の方々の感情面の相違を肌で感じ、ハード面での対策だけでは難しい実情を知りました。その後、自らの知識を深めることと、何か、防災・減災面で考えていけないかと思ひ、東南海沖地震に対する各自治体の都市防災対策にかかわるソフト面、ハード面での仕事にも参加させていただきましたが、住民への啓発などについてはなかなか難しい課題であると感じておりました。ちょうどその時に、斜面防災に関して太田様を通して、この NPO の活動を知り、入会させていただきました。

私は、これまで、橋梁設計、地下構造、斜面防災の仕事に従事してきました。

東日本大震災の際には、宮城県下のトンネルの調査、斜面調査を経験しました。高知県では、津波シェルターの設計に参画させていただき、数値的な回答の出る構造設計に対して、一般住民の方々への避難誘導の啓発のむずかしさを経験させていただきました。

本 NPO では、より住民目線で住民の方々の安全・安心につながるような行動ができればと思っております。

私事ですが、最近戸建を購入し、自治会への参加をしていこうと思っているのですが、まずはそのような身近な部分からでも防災・減災に向けた啓発活動を進めていきたいと思っております。

なかなか業務に追われている身ですので、できる限りの NPO 活動になると思っておりますが、頑張りたいと思っております。

まだまだ、技術者としても半人前で、一般の方の災害の危険性や、減災に向けた備えなどを広める活動ができるかは不安がありますが、ご指導していただきつつ、活動していきたいと思っております。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

当 NPO 顧問向井通彦氏が 旭日中綬章を受章されました！

皆様には既にご存じの方も多いことと思ひますが、当 NPO 顧問、元泉南市長 向井通彦氏が平成 27 年秋の叙勲に際して、長年にわたり地方自治振興に貢献されたご功績により旭日中綬章を受章されました。

もう一つ、こちらは皆様もまだご存じない方が多いと思ひますが、向井通



彦氏は昨年11月にレコードデビューも果たされています。「和歌山の恋」は作詞・作曲 向井通彦氏、歌 千桃よう子さん。「紀州路ものがたり」は、歌 橋架太郎・千桃よう子のデュエットです。橋架太郎（はしかけたろう）は、向井氏の歌手の時の芸名です。心斎橋をはじめとして大阪の多くの橋を手掛けられてきたエンジニアとして「橋を架けたろう」から創られた芸名と聞いています。

全国発売されていますので、たとえばAmazonからでもご購入できます。



自治体の方々の顔合わせ会の様子

防災講演会（12月19日）

「災害時応援受援体制を考える～受け入れる側の受援計画と体制整備」開催

12月19日に木村玲欧（きむら れお）先生（兵庫県立大学環境人間学部 大学院人間学研究科 准教授）の「災害時応援受援体制を考える～受け入れる側の受援計画と体制整備」が開催されました。詳細な講演記録をNPO ホームページに掲載していますのでご覧ください。

今回の防災講演会では、自治体関係の方の聴講が多かったので、休憩時間に顔合わせ会が平井会員を中心として行われました。

質疑応答時間では、聴講者の皆様から活発な議論がありました。ニューズレターに掲載できなかった質疑応答時間の写真を掲載いたします。



質疑応答時間の様子

事務局 だ よ り

- ◆ニューズレターのバックナンバーは、ホームページ (http://toshisaigai.net/newsletter/newsletter_index.html) にアップロードしています。
- ◆ワーキンググループ活動の例会の案内は、ホームページにも掲載しますので、ご興味のある方は参加してください。
- ◆あらためてご案内いたしますが、振替用紙が届きましたら2015年度会費の納入をよろしくお願いいたします。（正会員5000円です）
郵便局 00990-1-162816 加入者名 都市災害に備える技術者の会
三井住友銀行 藤原台支店 普通預金 7566003 特定非営利活動法人 都市災害に備える技術者の会
(2年間連続で未納の場合、自動的に退会扱いとなりますのでご注意ください。)
- ◆住所変更・メールアドレス変更等はできるだけ早く事務局にお知らせください。
書式等は、ホームページ <http://toshisaigai.net/join/join.htm> にあります。
- ◆メーリングリストが届かない方は、事務局までお知らせください。またメーリングリスト不要の方は、毎月初めに届くメーリングリスト備忘録に従って登録を外してください。
- ◆研修会講師の心当たり、あるいは研修内容の希望がありましたら、事務局 (office@toshisaigai.net) までお知らせください。
- ◆ニューズレターの原稿を随時募集いたします。お気軽に事務局までお送りください。